

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092400064
法人名	社会福祉法人 しなのさわやか福祉会
事業所名	複合福祉施設プラムの里 グループホームプラムの里
所在地	長野県上伊那郡宮田村4804番地1
自己評価作成日	平成 24年 11月 27日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成25年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が、その人らしく尊厳をもって、自宅で暮らすのと変わらない毎日の生活を提供します。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合福祉施設プラムの里は2000(H12)年の事業開始から地域のニーズに目を向け、地域密着型サービスの3事業も積極的に取り組み、グループホームプラムの里はH22年4月に開所している。管理者は地域の中で、'お互いに違和感なく暮らす'という願いを持ち、地域密着型サービスの3事業単位での取り組みを行い、プラムの里らしさが運営面等に活かされている。同時にグループホーム内の協同生活や支援の在り方を見つめ、行ったり来たりが普通に出来るホームづくりに取り組み、家族や地域及び行政との協力関係を積極的に進め、複合施設が持つ機能(協力体制等)や職員力を活かした支援が行われている。開所後満2年を迎えるグループホームとして、一つ一つ積み重ねながら、利用者の笑顔が見える支援を職員と共に取り組んでおり、今後に期待できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を記した紙を見やすい場所に掲示し、各職員が確認している	法人の持つ姿勢(理念)が、地域と共に歩む必要性や意義を十分ふまえており、グループホームとしても共有している。さらに事業目標を明記して、ホーム入口に掲げ、毎日出勤時には職員それぞれが目視して業務に着くよう申し合わせ、意識化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催されるイベント等に、積極的に参加している。新田地区納涼祭、収穫祭、宮田村眉宇再訓練、環境整備事業にも参加している。	区費を納入し地域の施設・職員としての意識を高く持ち、積極的に交流している。小学校やボランティア等との交流の他、村や区・地域の行事などに出向いて行く参加型の交流をしている。職員は利用者と共に地域で必要とされる役割を果たし、双方向の付き合いを大切にしたり取り組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして、地域グループ活動に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や活動報告などを行い、意見やアドバイスをいただいている。	委員の構成はグループホームと地域密着型サービスの他事業(特養)の利用者及び家族代表の他、区長・民生児童委員・地域包括支援センターの職員等が出席し、偶数月に開催。生活や活動状況報告を行うと共に、地域との協力や連携について話し合い、今後に繋げている。また利用者と共に食事をして頂く機会も設けている。	今回の自己評価・外部評価結果及び目標達成計画を含め、開示し、現状を明らかにする透明性の確保が望まれる。また委員から提案や意見を頂きながら、一体的に取り組んでいく協力者となって頂けるような運営推進会議を希望する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と連携し、情報交換・共有に努めている。	村主催の事業者連絡会に出席し、情報交換や連携に努めたり、社会福祉協議会等とも積極的に話し合いの機会を持ち、協働関係を築いて行くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミニカンファレンスなどで、身体拘束をしないケアができるよう努めている。玄関ドアにはベルをつけ、開閉に気付けるようにしている。	玄関は施錠をしていないが、ベルを付けている。やむを得ない場合に一時的に行うこともあるが、適正な手続きがなされており、職員はその弊害についても認識をして、拘束のないケアに努めている。今後職員体制の充実や研修を組んで行く予定とのことである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員採用時研修で実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員採用時研修で実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時及び地域密着運営推進会議等において、入居者、ご家族のご意見・要望をお聞きし、以後の施設運営に活かすよう努力している。	家族の面会時や普段の生活の中で、気軽に話してもらえるような雰囲気づくりに配慮すると共に‘お客様の声投函箱’を設置している。また昨年、地域密着型サービスの3事業合同の家族会を発足させ、会長などの役割を設けている。グループホームとしては五平餅会を家族会で行的交流を図っている。	全ての利用者や家族は要望や苦情を言い難い立場にあることを理解し、積極的に聞く努力が求められる。家族等が自由に意見が言えるような機会の工夫や、家族会を有効に機能させて行く取り組みが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会などで職員の意見等を吸い上げ、主任会議に反映させている。	月2～3回のユニット会で職員の意見を聞くと共に、様々な委員会活動を通して職員意見や提案などを取り上げ、日々の支援に反映させている。また複合福祉施設全体の、上部へ提案や意見を挙げて行く仕組みもあり、運営に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を新たに導入し、職員個々の能力や勤務状況等を一時金や昇給に反映させ、個々人のモチベーションの向上を図る準備を進めている。また、職員が持っている特技等がご利用者への処遇に活かせるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主研修や施設内研修の機会を多く持つようにし、技術や知識の向上に向けて施設としても取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村の事業者連絡会やグループホーム連絡会を通じて、合同の研修会等において、相互の情報交換や課題解決に向けた活動を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ユニット内をご案内したり、ご利用者の相談やお話の時間をゆったり持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活の様子や、ご本人の好き嫌い、趣味なども含め、ゆっくりお話をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いに添いながら、支援について考え実践するよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に作業や食事などをして、笑ったり悩んだりしながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時等ご利用者の家族が来所した折は、ゆっくり過ごしていただけるよう努めている。また、外出や電話をいただくよう協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や友人等に会いに出かけるよう、少しずつ支援している。	馴染みの関係を継続していく支援の大切さを認識し、出来るだけ応えるよう取り組んでいる。生まれ育った地域や家に行ってみたり、受診付き添い、スーパーでの買い物等の個別支援を行っている。又家族との繋がりを大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で気が合う、合わない相手同士それぞれ対応に配慮し孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望や必要があれば、支援していきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の発言や要望等は記録し、思いに添えるよう努めている。	職員それぞれが、利用者との会話や触れ合いの中で思いの把握に努め、気づいたこと等を生活記録や個別ノートに記入し、状況に応じて入居者連絡ノートに落とし、職員間の共有や連携に活かしている。また家族からも話を聞き意向の把握に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からお話をお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子や状況を記録し、情報を職員間で共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で話し合い、計画を立てている。また、ご家族もチームの一員としてかかわっていただき、ご意見を取り入れるよう努めている。	毎週カンファレンスを行い、モニタリングに基づいた職員意見を反映させた介護計画の作成や見直しをしている。家族来訪時や電話等で家族等の意見を聞き、必要な関係者と話し合いを行い、時にはミニカンファレンスを即時に開催して、現状に即した計画や支援に繋いでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残すとともに口頭でも伝え、職員全体で情報を共有しながら、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診やご本人が希望する外出など、できる限り柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元新田区と「地域福祉推進協定」を結び、相互に協力し合う体制を整え、ボランティアの受け入れをはじめ、地域の福祉増進に施設側からも協力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を尊重し対応している。今年度から訪問看護による健康管理のほか、かかりつけ医への情報提供など連携を密にし、定期的な往診もお願いしている。	利用者・家族の意向に副ったかかりつけ医の受診を支援している。家族の都合により、職員が同行受診することもあり、受診後の報告が行われている。また協力医による定期的な往診や訪問看護を利用する中で「医師上申ノート」を用いて、医師と看護師及び職員双方の連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による看護師のほか、施設内看護師との連携も取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医をはじめ、入院施設のある病院とも常日頃連携を保つよう良好な関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当法人の他の施設(小規模特養)では看取りケアを行っており、ホームにおいても準備中である。	入所時に利用者・家族に看取り指針の説明を行い方針を共有し、重度化や終末期の支援を行っている。状況に応じて、その都度話し合い、「看取り介護計画書」を作成し、職員や医療関係者・法人内施設等と連携を図り支援をしている。また振り返りカンファレンスも行っているとの事である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や講習会等で訓練をしているが、ユニット会などで定期的な訓練を行うよう計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の定期的な防災訓練では、発生時間等も考慮し昼夜を問わず対応できるよう備えている。また、地域との防災協定により施設訓練に住民も参加するなど、有事の際には地域の協力が得られる体制にある。	プラムの里防災ガイドラインにより対策を講じている。法人内施設連携は基より、新田地区と協力関係が図られ防災協定の下に年2回の訓練が行われている。訓練には車椅子を押す体験もして頂き、いざという時に備えている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの立場に立って、個々人に合わせた言葉かけを行っている。	職員は利用者に対する名前の呼び方や声かけ・言葉使い・対応方法等について、利用者の思いや気持ちへ配慮した支援に努めている。何気ない日常の関わりの中で、お互いに気になる対応については、一呼吸置きながら取り上げて、互いにチェックしている。開所2年目としては職員研修を充実させて行く予定との事である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者をご自分で判断するよう声掛けをし、ご本人の思いに応えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、就寝時間等、ご利用者一人ひとりのペースで生活していただけるよう、対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装をはじめご利用者の身の回りのものは、できる限りご本人に選択していただくよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者一人ひとりの好みに合わせた食事を提供するとともに、一緒に準備し食事をし、片付けを行っている。	管理栄養士が献立を作成し、別棟の厨房で調理し、運んでくる体制ではあるが、共同生活を送るグループホームとして「食」に関する活動をホーム内に位置づけ、出来るだけ(汁物や昼食)利用者と共に行うようにしている。栗をむいて栗ご飯にしたり、盛り付けをして頂いたりして、利用者と一緒に食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養計算に基づいた食事の提供と、一人ひとりの状態に合わせた水分摂取をすすめている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるところはご本人に行っていただき、その他はお手伝いしている。また、歯科衛生士による口腔ケアも行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の体調に合わせ、できるだけトイレで排泄できるようにしている。使用する排泄用についても、その人に合ったものを研究しながら行っている。	車椅子やオムツを使用している利用者も、出来るだけトイレで排泄するよう支援している。利用者の様子や排泄記録を通してさりげない支援に努め、生活向上委員会が中心となり、排泄用品の選択や扱いの学習等が行われ、一人ひとりに応じた排泄ケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を工夫するとともに、排泄記録をとり看護と連携してトイレ誘導を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの要望に沿い、入浴が楽しめるよう支援に努めている。	家庭的なユニットバスで週2回位を目安に、午後の時間帯に体制を整えて入浴を支援している。身体状態に応じては、職員が2人で対応をしたり、法人内隣接の特浴を利用することもあり、利用者の状態や意向に副った入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの部屋ごとに室温など空調管理を行い、気持ちの良い寝床づくりや足浴なども行い、安心して気持ちよく眠れるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護と連携し、職員全員が情報を共有しながら、状態の変化や薬の変更時の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑づくりや洗濯物たたみ等の軽作業を通じて、役に立っているという喜びが持てるよう工夫し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があったとき又は職員からの声掛けにより、外出の機会を増やし気分転換ができるよう支援に努めている。	利用者の希望に添い、職員配置を調整して、出来るだけ支援できるよう努めている。ホーム近くの公園の散歩や、四季折々の花見ドライブに出かけ、気分転換を図りながら外出の楽しみを支援している。時には家族の協力を頂いたり、職員が1対1で同行することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の中で現在一人がお金を所持しているが、他のご利用者も所持できるよう支援を検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力を得ながら、本人が電話したいときに電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度の管理、照明の調整に心掛けています。また、季節ごとの花をテーブルや玄関に飾ったり、行事の雰囲気作りにも心がけています。	ホールの一角に畳コーナーがあり、炬燵が置いてある。壁にはお雛様の貼り絵が飾られ、ヒヤシンスの鉢があちこちに置いてあり、生活感や季節感が感じられる。濡れタオルでの湿度管理や室温などに配慮し、ソファや炬燵で利用者がゆっくり過ごせる共用の間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の一角に長椅子を置き、自由に一人または気の合うご利用者と一緒に過ごしている。また、畳の小上がりも設置し自由に横のなれるよう配慮している。		

外部評価(プラムの里)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとり長年なじんできた筆筒や寝具を使用していただいたり、思いのある写真などを飾って心地よく過ごせるよう配慮している。	居室入口は住所表示の～番地としている。殆どの方がベッドを使用しているが、和床の利用者も居る。使い慣れた筆筒やテレビ・編み物・カレンダー等・・・が思い思いに置かれて、利用者が過ごし易い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることはご自分で行っていただくことを基本とし、居室やトイレのドアをしめ切っている、プライバシーに配慮しながらさりげなく見守りができるように努めている。		

目標達成計画

作成日: 平成25年3月22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	63	家族会の活用があまりできていない。家族の皆さんの意見の吸い上げや、利用者とのつながりを大切にする必要を感じる。	計画的に家族会が開かれ、家族とともに良いグループホームづくりができてること。家族の皆さんを通じて地域との関わりが持てるようになっていこと。	1. 2か月ごとに広報誌を発行することや毎日の生活を記録しながら、ご利用者の様子を家族の皆さんに知らせる。 2. 2か月に1回家族会を開催し、ご利用者との関わりを緊密にしていく。	12ヶ月
2	65	運営推進会議の活用も含め、一体的な取り組みをしていきたい。	自己評価、外部評価及び目標達成計画の開示。現状を明らかにし、一体的に取り組んでいける運営推進会議・家族会になっている。	1. 運営推進会議・家族会の場において、今回の自己評価及び外部評価の結果と、目標達成計画を開示しご理解をいただく。	1ヶ月
3	67 68	定期的カンファレンス及びモニタリングを行っているが、記録として(個々に)残っていないことが多い。また、担当者はモニタリング表を作成し、ケアプランに活かせることが必要である。	担当者がきちんと作成したモニタリング表と、ケアマネがたてたケアプランと連動していること。また、生活記録表にケアプランが見やすいように付けられ、毎日ケアプランに基づいたケアが行われていること。	1. 担当者は月に1回モニタリングをきちんと行う。 2. 達成できているプランは、次の目標へのプランに変えていき、ご利用者ができることを増やせるよう努める。	12ヶ月
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

目標達成計画